



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJ IR Day 2021

UATH(タイ)事業の現況と展望

取締役 兼 副社長執行役員

UACJ(Thailand) Co., Ltd. 取締役社長 土屋 博範

2021年6月8日

株式会社UACJ



1. UACJ(Thailand) Co.,Ltd.の概要

東南アジア地域の基幹工場として32万トン体制を構築

従業員数

約1,270人

生産品目

缶材、自熱交、
エアコン向けフィン材
その一般材

展開エリア

缶材: 25カ国
自熱交: 12カ国
フィン材: 8カ国

顧客基盤

約70社

- 東南アジア唯一の最新鋭アルミ圧延工場
- 需要伸長が見込まれるアジア圏へのアクセスの良さ
- 日系企業をはじめとした製缶メーカーとの信頼関係



UACJ (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

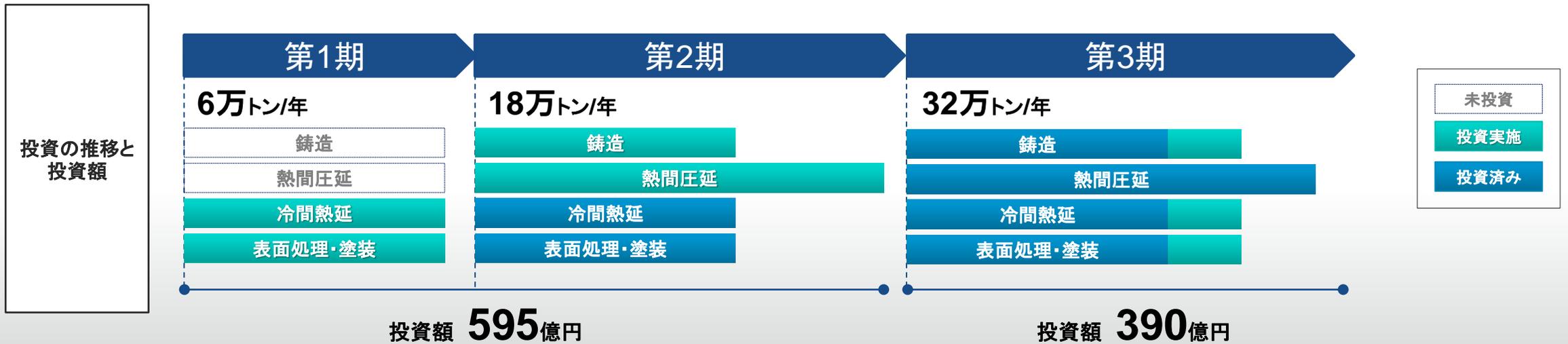
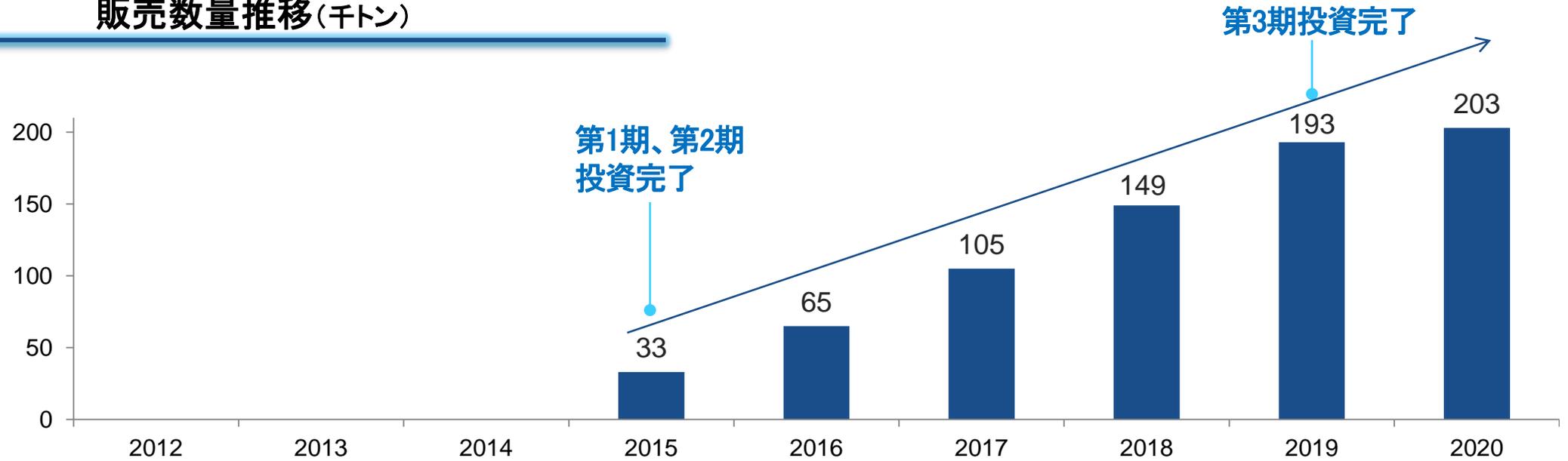
世界約25カ国
に販売

年間32万トン
の生産体制



1-2. UATH 投資と販売数量の変遷

販売数量推移(千トン)



2. UATH 重点方針・重点課題

循環型モノづくりの完成を強みにした存在感のあるUATHの実現

重点方針

3期起業の効果を実現し
さらに現有設備を徹底活用

環境負荷低減推進に対応する
新技術の追求

重点課題

3期起業効果32万トン/年を超える
生産量に向けた能力向上

収益力向上 最適な品種・地域・顧客構成
新品種への取組み
コスト低減

スマートファクトリー化の実現
工場運営の現地化の実現

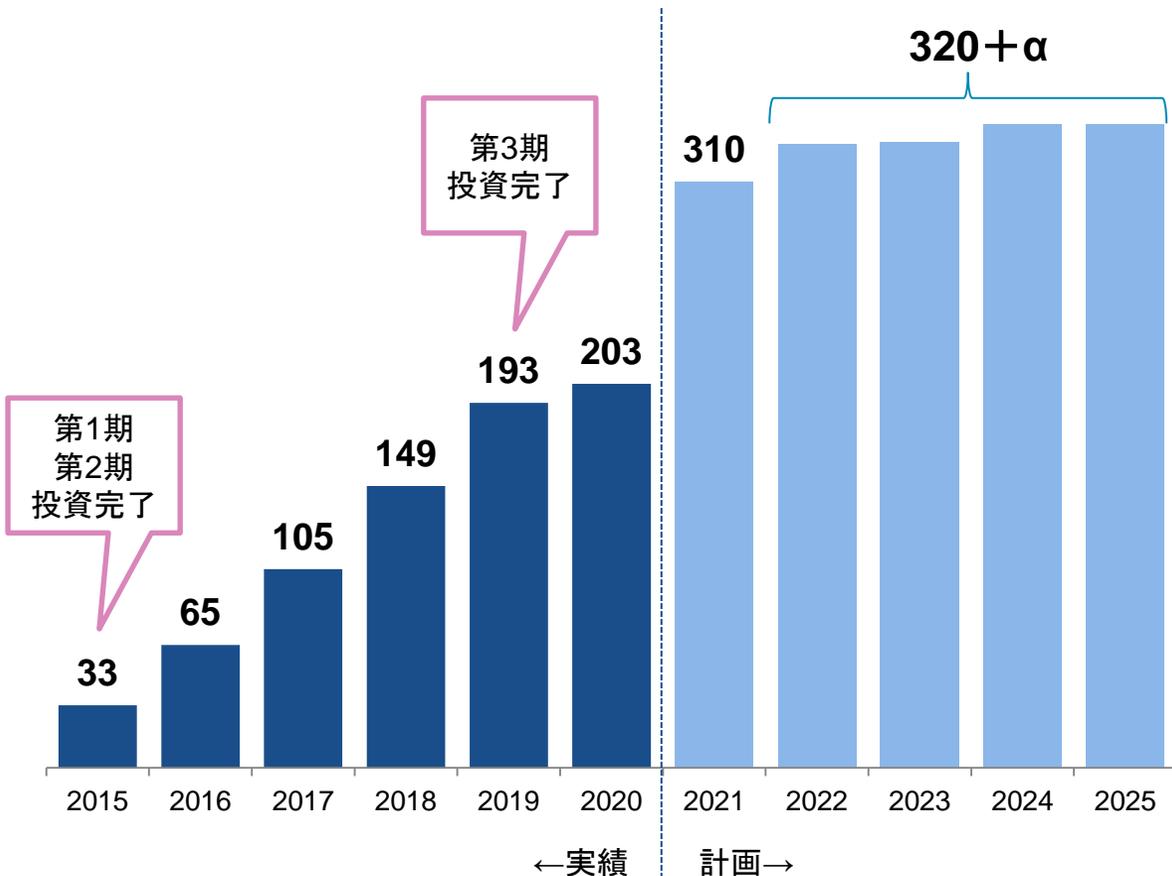
リサイクル技術の開発(スクラップ率向上)
低環境負荷塗膜技術、缶材軽量化

Can to Can Loopの構築
ASI認証*取得

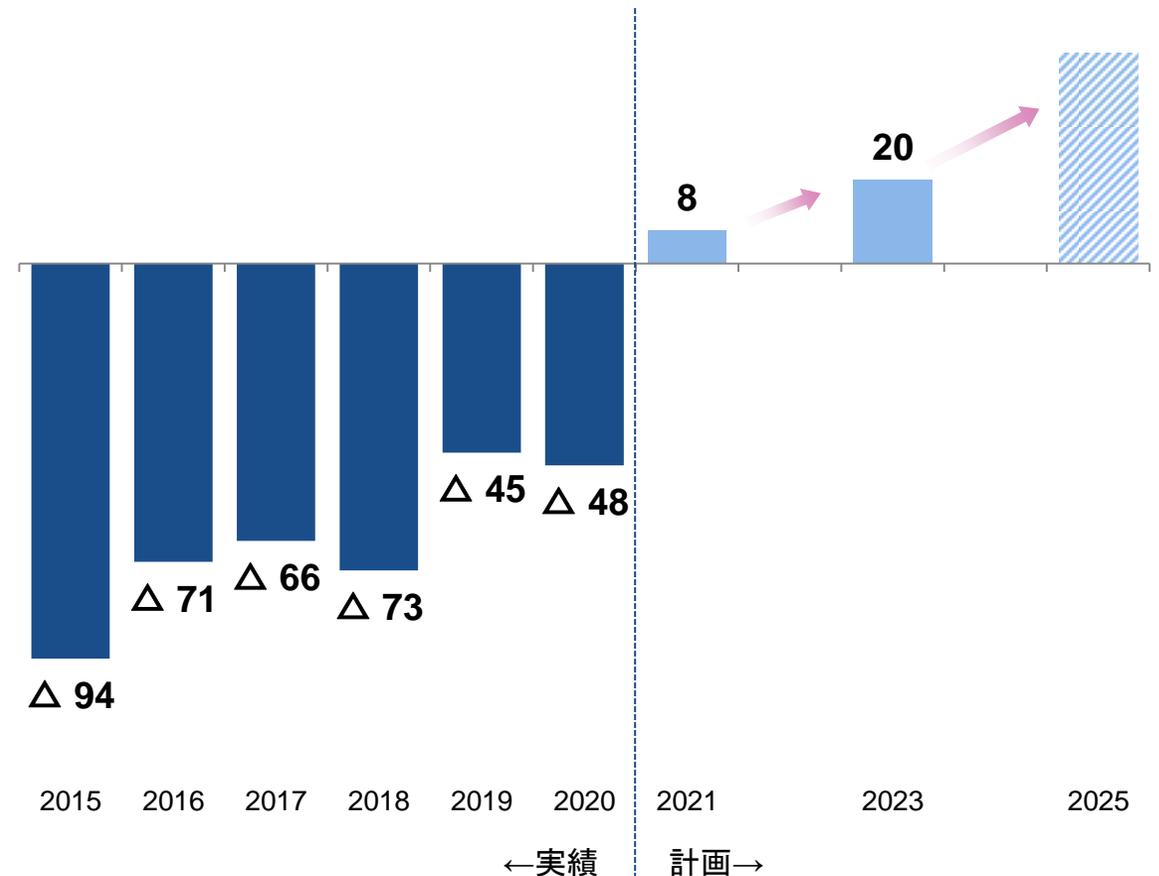
4. 販売数量、経常損益計画

2019～2020年度上期は新型コロナの影響が大。2021年度より数量増・コスト低減で挽回

販売数量推移(千トン)



経常損益推移(億円)



3-1. 販売戦略①



01

東南アジア唯一の
ミルとして域内シェア
を拡大



02

グローバルサプライヤー
としての競争力
を鍛えグローバル顧客
との関係を強化

➤ 米国+アジアでの拡販を目指す

- ✓ 足元では、缶材需要の旺盛な北米市場の取り込みを継続2024年度以降はアジアでの拡販を目指す

➤ タイにて缶材リサイクルループの確立

- ✓ タイにて、産官学が連携するCan to Can Journey に参画。缶のリサイクル優位性をアピールしながら、リサイクルの仕組みを確立する

➤ 世界3極体制を活かした缶材販売を強化

- ✓ 世界3極体制の情報網、人脈を最大限活用し、グローバル顧客との関係を強化 UATH*1、TAA*2、UACJによるOne Stop対応強化
- ✓ バンコクだけではなく、欧州、中東、インドにサテライトオフィスを設置することでグローバル販売を更に強化
- ✓ 地場に強いエージェントの起用
- ✓ グローバル人材の育成により、営業力を強化する

➤ 直販体制の更なる強化

- ✓ 直販体制の強化のため、体制、人材教育を強化していく

3-3. 販売戦略③ 缶材のリサイクル循環を構築



03

リサイクル循環を通じ顧客・当社双方にメリットあるビジネスを構築

➤ 東南アジアでのリサイクル循環スキーム構築を先導



環境循環に貢献する企業としての社会的認知を向上

2-2. 重点課題実現に向けての取組み

2021年度

～2025年度

～2030年度

生産性 向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 歩留りの改善を追求 ✓ 32万トン/年の生産体制確立 ✓ +αの生産量に向けた能力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界最高水準の生産性確立 ✓ 32万トン/年を上回る生産への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 世界最高水準の生産性追求
収益性 向上	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コスト低減 ✓ モビリティ関連製品参入 ✓ グローバル販売体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新製品開発と対応設備増強 ✓ 販売価格の交渉 ✓ 販売品種の最適化検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新製品開発拡大、設備の導入 ✓ 販売品種の最適化完了
工場の スマート化 現地化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業務効率改善 (IoT活用、システム改善) ✓ 現地採用社員への業務移管 ✓ 階層別・業務別教育システム作成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スマートファクトリーの完成 ✓ IoT活用による設備・システムの改善 ✓ 工場運営の現地化を確立 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DX化推進 ✓ 人員再配置の推進
環境 対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ASI認証取得 ✓ リサイクル技術の開発 ✓ CO2排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 循環型サプライチェーンの構築 ✓ リサイクル関連設備増強 ✓ CO2排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 循環型サプライチェーンの完成 ✓ CO2排出量削減目標の達成
Can to Can	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop構築Step1 ✓ UBC*の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop構築Step2 ✓ タイ国内での缶材水平リサイクル化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Can to Can Loop拡大 ✓ 周辺国でのUBC*回収をシステム化

2-3. UATHが引き出す素材の力

01 | 素材の力を引き出す技術で、缶材スクラップ使用増を目指す

02 | 素材の力を引き出す技術で、缶材性能の向上を目指す

03 | 素材の力を引き出す技術で、缶 エンド材成型性の向上を目指す

04 | 素材の力を引き出す技術として、IoTを活用する

4-1. Can to Can Journey への参画

タイ政府主導の環境負荷低減活動であるアルミ缶リサイクル推進プロジェクトに参画

Can to Can Journey

政府、業界関係者をUATHに招き、アルミ缶のリサイクル性、Can to Can のClosed Loop(アルミ缶プロセスにてアルミを再利用する循環)を理解して頂く活動

参画企業・団体



4-2. ラヨン製造所 太陽光パネル設置計画

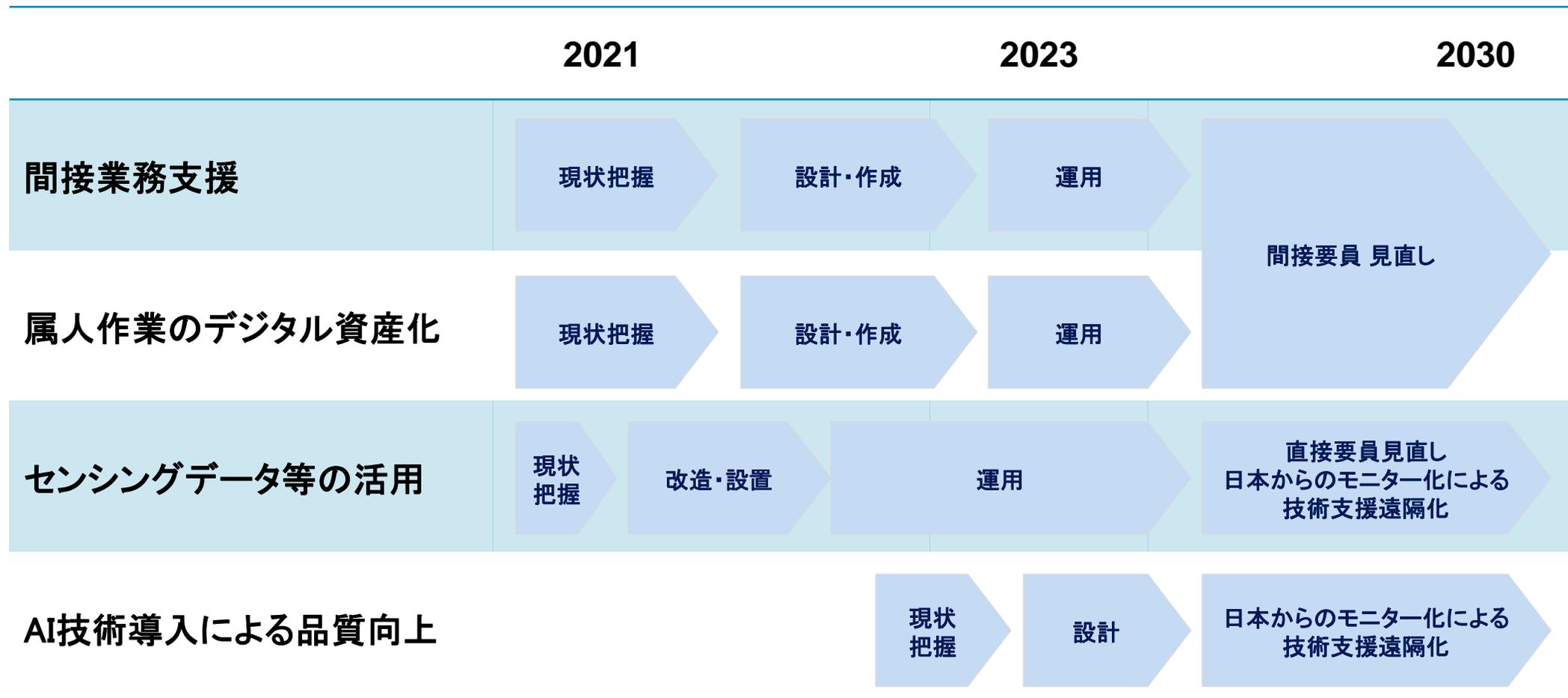
大規模太陽光パネルを設置し、使用電力の一部を再生可能エネルギーでまかなう

ラヨン製造所全景



5. スマートファクトリー構想

2030年に向けてスマートファクトリー化の基盤を整備し、完成を目標とする



6. 人材育成の将来構想

Operation by Local から Management by Local へ

➤ 企業理念の浸透徹底

- ✓ 理念対話会を開催、全社員に対して理念の浸透徹底を図る

➤ Career Development Plan の作成

- ✓ 全従業員のキャリアパスの見える化
- ✓ 計画的な人材育成計画を促進

➤ Localization Plan の進展

- ✓ Management by Local 体制に向けた組織計画を策定
- ✓ 2023年に日本人比率3%を目指す

➤ Functional Training Plan の実行

- ✓ 現地化を進め、業務移管完了後はタレントマネジメントにより蓄積されたデータを利用
- ✓ UATH内で、次の幹部候補者を育成する仕組みを構築・実行

➤ Language Training Plan の進展

- ✓ コアパーソンの日本語能力向上を促進



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界